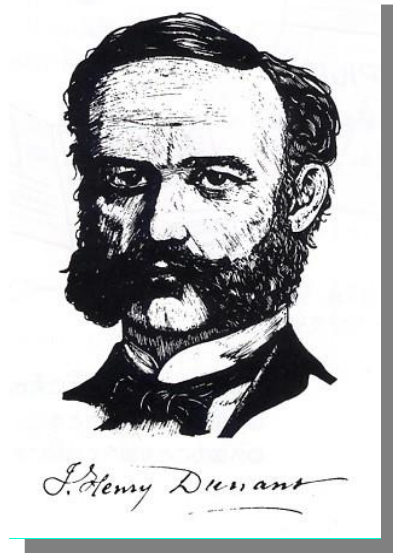


もっと もっと 知りたい
みなさんへ

3-3 小学校 赤十字について



わたくしの名前は

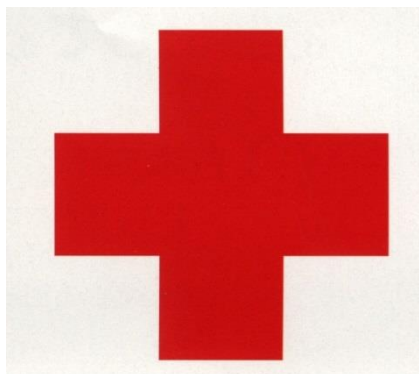
アンリー・デュナン

生まれた国は

スイスのジュネーブ

1828年5月8日

- ・ 赤十字の父「アンリー・デュナン」
- ・ 赤十字誕生のきっかけ「ソルフェリーノ」の戦い
- ・ デュナンが提案したこと
- ・ 五人委員会について
- ・ 赤十字条約の採択・ジュネーブ条約の調印
- ・ 赤十字のマークについて
- ・ 国際赤十字のしくみ
- ・ 赤十字基本原則
 - ・ 人道
 - ・ 公平
 - ・ 中立
 - ・ 独立
 - ・ 奉仕
 - ・ 単一
 - ・ 世界性
- ・ 日本赤十字社について
 - ・ 誕生のきっかけとなったこと
 - ・ 博愛社（はくあいしゃ）・活動



小学校のみなさん

赤十字についての学習

もっともっと赤十字を学習してみよう

日本赤十字社愛媛県支部

赤十字の父「アンリー・デュナン」について



1828年5月8日(スイスのジュネブに生まれる)

父はスイス国民議会議員であり、政府の孤児保護院の仕事もしていた。

母も孤児や貧しいひとの面倒をみるなど、博愛に満ちたひとでした。

デュナンは両親のもと自然と人のために働くといった人道的な心をもった青年に成長していきました。

デュナン大学進学断念

1849年(21歳)リュラン・ソテー銀行に見習入行、やがて共同経営者となる。

1854年～58年 銀行をやめて、アルジェリア(フランス植民地)に製粉会社をつくりました。土地が砂漠地帯にあり、水の利用のことで、困っていました。

- ・ フランス皇帝ナポレオン三世に、土地や水のことで助けを求め、アルジェリアを旅立ちました。
- ・ 当時、フランスはイタリア統一を目指すサルジニアと手を結び、オーストラリアと争っていました。

1859年6月24日 フランス・サルディニア連合軍とオーストリア軍は、北イタリア、ロンバルディア平原のソルフェリーノで戦を初めました。

1859年6月25日早朝 デュナンは、ソルフェリーノの近くのカステリオーネで、村人たちと傷ついた兵士を敵味方の別なく助けました。

1862年 デュナンはソルフェリーノのことについて「ソルフェリーノの思い出」という本を出版しました。

1869年 デュナンは赤十字をつくることに努力しましたが、事業のほうはが破産してしまい、赤十字から引退しいきました。

1901年 世界初のノーベル平和賞受賞

1910年10月30日デュナン(82歳)スイスのハイデンで亡くなりました。

赤十字誕生のきっかけとなったこと

1859年 イタリア統一戦争
(19世紀最大の戦い)



ソルフェリーノ

兵士

・フランス・サルジニア連合軍
(15万人)

・オーストリア軍(17万人)

戦場・戦い

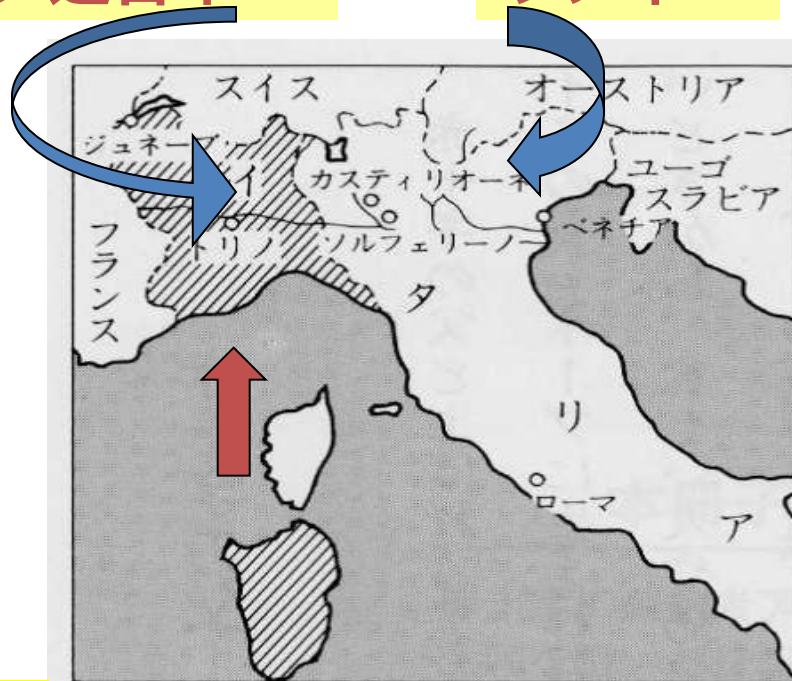
ロンバルディア平原

朝6時から深夜まで

4万人もの死傷者がでる

フランス・サル
ジニア連合軍 対

オースト
リア軍



イタリアの地図 (ななめの線の部分が、当時のサルジニア王国。)

アンリー・デュナン、「ソルフェリーノ」で、戦争にであう。

カステリオーネでのアンリー・デュナン

アンリー・デュナンは、当時アルジェリアで製粉会社を経営していました。ナポレオン三世に援助をしてもらうため、ソルフェリーノに来ていました。



オーストリア軍とフランス・サルジニア軍の戦いは、11時間も続き、40,000人もの兵士が死んだり、傷つきました。



「傷つき倒れて戦えない兵士は敵も味方もない。同じ人間として助けよう」



「みんな人間どうし」の「あいことば」のもと、町の人々といっしょに、敵・味方の別なく傷ついた兵士を助めました。



ソルフェリーノの近くのカステリーネの町で、傷ついた人を助けるアンリー・デュナン

ジュネーブに帰り デュナンがしたこと

「ソルフェーノの思い出」
という本を書く

その中で提案したこと

- ・戦場で負傷した兵士を敵・味方の別なく助ける民間の組織を各国につくる。

のちの 赤十字

- ・その団体が戦場で安全に活動できるように国際的な取り決めをする。

のちの ジュネーブ条約



デュナンの考えを実現するため
ジュネーブの人々は「五人委員会」をつくる。

アンリー・デュナン



アンリー・デュフル

デオドル・モノワール



ルイ・アッピ
ア

ギュスタブ・モワニエ



デュナンが提案した
ことの実現をめざし



五人委員会がまずしたこと

1863年10月26日～29日
ジュネーブのアテネ宮

スイス、イギリス、フランス、イタリア、
スペイン、オランダ、スウェーデン、
ロシア、オーストリアのほか、統一前
のドイツを形成していたプロイセン、
バーデン、ババリア、ハノーバー、
ヘッセ、ザクセン、ヴュルテンベルグ
の16カ国と4つの団体



初の国際会議を開く



戦場で負傷した兵士を敵・味方の別
なく助ける民間の組織を各国につく
る。



10カ条の赤十字条約の採択

医療人員中立化の承認、各国に救護団体
(きゅうごだんたい)の設立、「白地に赤十
字」の使用の決定、等



会場の風景
書記席 アンリー・デュナン

1863年10月29日

赤十字の誕生

よく年、「各国の救護団体」が「戦場で安全に活動できる」ための国際的な条約を作る



国際会議

1864年8月8日～22日 ジュネーブで開催(かいさい)

1864年8月22日 初の「ジュネーブ条約」(「陸の条約」)調印

参加国

スイス、バーデン、ベルギー、デンマーク、スペイン、フランス、ヘッセン、イタリア、オランダ、ポルトガル、プロシヤ、ウルテンベルグ

※ 出席しながら調印しなかった国
イギリス、ザクセン、スウェーデン、ノルウェー、アメリカ

救護のために活動する人(ひと)や施設(しせつ)を攻撃(こうげき)しないという各国(かくこく)の約束(やくそく)を決(き)めたもの

- 第1条 病院の中立
- 第2条 看護人の中立
- 第3条 占領された時の看護人の職務の保障
- 第4条 病院の器物は病院のもの
- 第5条 負傷者を保障する民家や個人の中立
- 第6条 戦場においては、敵味方の区別なく、傷病兵を看護する。
- 第7条 「白地に赤十字を描いたもの」中標識とする。
- 第8条 条約の実施に関する細目は、その交戦軍の司令長官の責任において決める。
- 第9条 各国に政府公認の救護団体をつくる。
- 第10条 批准は4か月以内にする。



最初のジュネーブ条約調印のを描いた群像図

ジュネーブ条約（じょうやく）の歴史

陸の条約

1864年
制定

海の条約

1899年
制定

捕虜（ほりよ）
の条約

1929年
制定

ぶんみん
文民の条約

1949年
制定

ついかぎていしよ
追加議定書

1977年

2005年

1949・1977・2005年の「どんなときでも守らなければ
「世界的なきまり」

1949年

陸の上で戦って傷ついた兵士を助けます。

1949年

海の上で戦って傷ついた兵士を助けます。

1949年

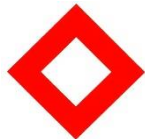
敵につかまった兵士を守ります。

戦いに直接参加一般の人たち文民を守ります。

第1追加議定書 — 国と国の戦いによって被害を受けた人たちをまもります。

第2追加議定書 — 国の中の戦いによって被害を受けた人たちをまもります。

第3追加議定書 — 赤いクリスタルを赤十字のマークとしてみとめる。



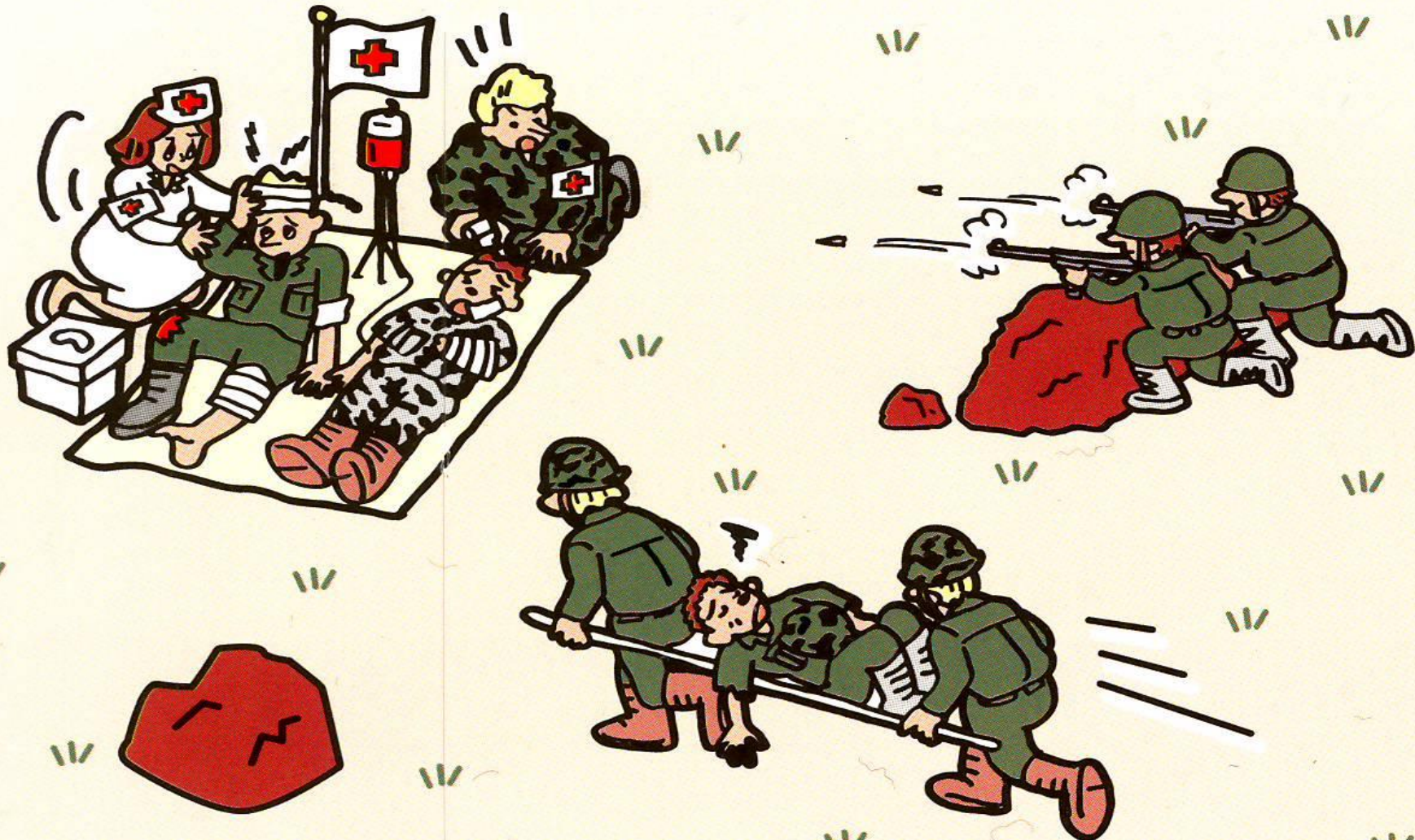


どんな時でも守らなければなら
ないことがある。
「これは世界のきまりだよ」

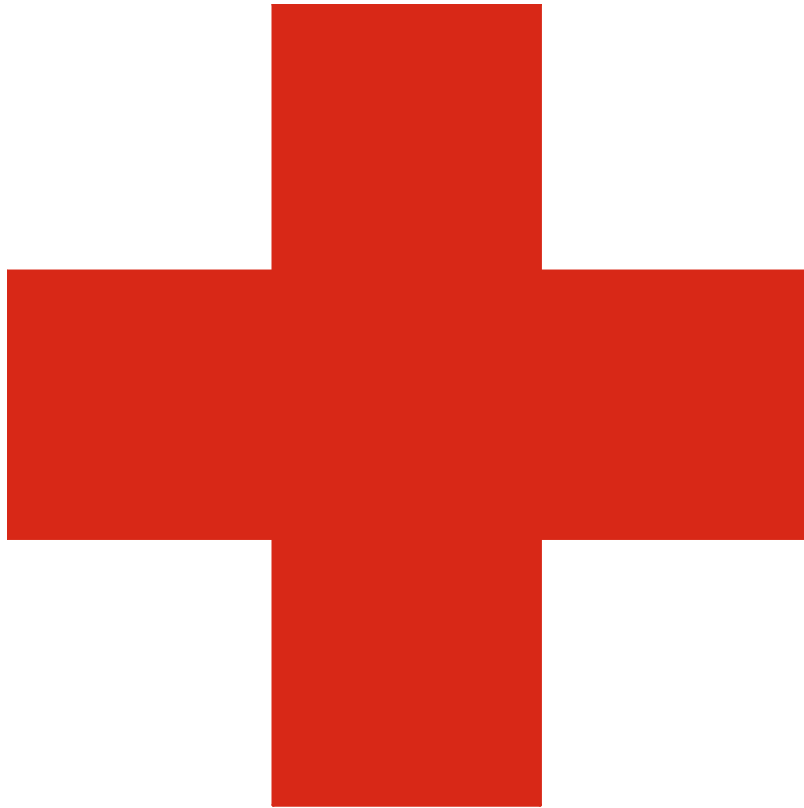
戦争でしてはならないこと



- ・戦争ではないこと
- ・守らなければならないこと



赤十字マークの意味



保護

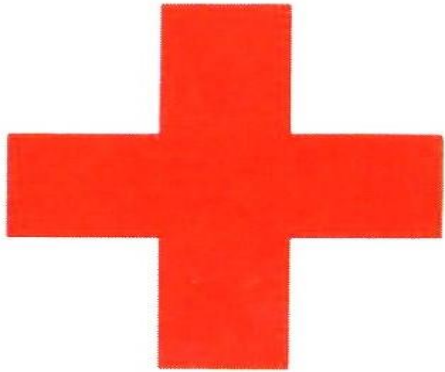
戦場で救護活動を行う人や施設を保護するためのしるし。

平和なときも赤十字の活動以外に、むやみにつかうことはできません。

表示—あらわしていること

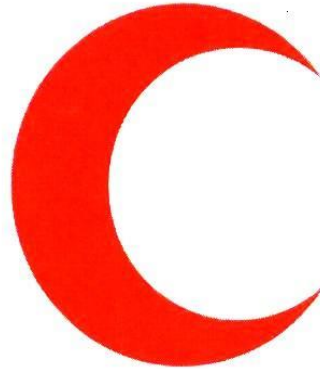
このマークをつけている人や物(たてもの、じどうしゃ、どうぐ、・・・)は保護しなければなりません。

現在承認されているマーク



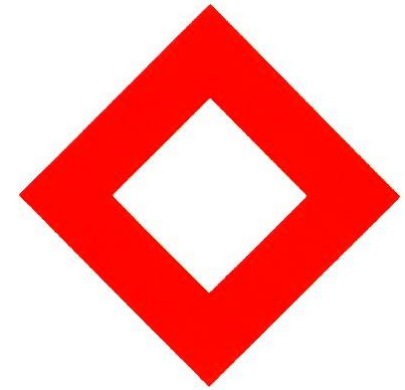
赤十字

アンリー・デュナンの祖国スイスに敬意を表し、スイスの国旗の配色を逆さにしたもの
1863年10月29日採択



赤新月

白地に赤十字は、イスラム教徒に不快の念を抱かせるとしてトルコが赤新月の使用を主張し、1929年に承認された。



レッドクリスタル

標章の宗教性の問題で加盟できなかったイスラエルが赤十字の一員になり、併せてパレスチナの加盟も認められた。赤いクリスタルの中に独自のマークを入れることも認められた。(2006年6月20日~22日 第29回赤十字・赤新月国際会議)

国際赤十字のしくみ

国際赤十字とは、「赤十字国際委員会」
「国際赤十字・赤新月社連盟」「各国赤
十字・赤新月社」の三つの総称

スイス人のみで構成され、
ジュネーブ条約が守られて
いるかどうか調べます。
新しい赤十字の設立を認
めます。

ジュネーブ
条約加入国
(193か国)

4年に一度開かれる赤十字
の最高の会議、国際赤十
字の代表、ジュネーブ条約
に加盟している国の代表も
参加して話し合いを行う。

赤十字国際
委員会



赤十字・赤
新月国際会
議

国際赤十字・
赤新月社連盟



各国赤十字
社・赤新月社
(186社)



平和なときの赤十字活
動の中心機関としてつく
られ、ジュネーブにあり
ます。

世界には現在186か国の赤
十字社と赤新月社があり、さ
まざまな活動をしております。

赤十字の^{きほんげんそく}基本原則

1956年、ジャン・S・ピクテ「赤十字の諸原則」を出版。この本で赤十字の基本になる考え方や仕組みをまとめました。この考え方基本となり、現在の「国際赤十字・赤新月運動の基本原則」となった。



1965年 第20回国際会議で「国際赤十字・赤新月運動の基本原則」として決定。「赤十字の基本原則」・「赤十字の7原則」と言われている。

人道

- ① いのちと健康を守る。 ② 苦しみをかるくし、予防する。 ③ 人をそんちょうする。

赤十字は、ひとりひとりが協力して助け合う活動を通して、たくさんの人々の苦しみをやわらげ、尊い命をまもってきました。その活動を行うときの考え方や活動の原則を7つにまとめました。



公平
中立
独立
奉仕
単一
世界性

赤十字が活動する元になるもの



「人道」の原則を実現するために必要なもの

人道

公平

中立

独立

奉仕

単一

世界性

人道（じんだう）

赤十字は、戦場で傷ついた人を敵も味方も区別なく助けたいという願いから生まれました。

赤十字は、いつも、人間の苦しみをやわらげ、生命と健康を守り、人間の尊重（そんちょう）を確保（かくほ）することに努力します。

赤十字は、世界の人々がたがいに理解（りかい）しあい、仲よく助け合って平和な世界を作ることに協力します。

人道 公平 中立 独立 奉仕 単一 世界性

公平 (こうへい)

赤十字は、だれに対しても、国や民族、宗教などによってえこひいきをしたり、差別をしません

赤十字は、人の苦しみをやわらげることに努め、最も苦しんでいる人からたすけます。

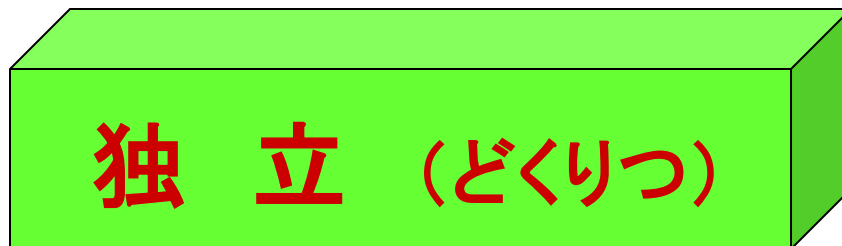
人道 公平 中立 独立 奉仕 単一 世界性



中 立 (ちゅうりつ)

赤十字は、いつもみなさんから信頼（しんらい）を受けるために、どんな争いのときでも、どちらにも味方しません。

人道 公平 中立 独立 奉仕 単一 世界性



赤十字は、国の助け合いの活動に協力し、
国の法律に従いますが、いつも活動は赤十字の原則によって自主的に行動します。

人道 公平 中立 独立 奉仕 単一 世界性

奉 仕 (ほうし)

ボランティア・サービス (V・S)

赤十字は、苦しんでいる人、困っている人たちのことを考えて行動し、その人々の支えになります。

赤十字は利益を求めない奉仕的救護組織

人道 公平 中立 独立 奉仕 単一 世界性

単 一 (たんいつ)

どんな国にも赤十字は、ひとつの国に一つしかありません。

赤十字は、その国のすべてにわたって活動を行います。

人道 公平 中立 独立 奉仕 単一 世界性



世界性 (せかいせい)

赤十字は、世界の中につながりを持って
おります。

すべての赤十字は同等で、つねに協力い
ます。

「人道じんどうの四つの敵てき」を克服こくふくする

「人道の実現をさまたげるもの」として「ジャン・ピクテ」が提案しました。「やさしさと思いやり」を待った人間になるということは、この「四つの敵」を克服していくことです。

① 利己心(りこしん)

自分さえよければ、他の人がどのように迷惑しても困っていても関係ないと皆がそう思っていたら、あなたが困っているときにだれが助けてくれるでしょうか？

② 無関心(むかんしん)

あなたが困った時、手助けを必要とした時、それを呼びかけてもだれもあなたを見向きもしなかったらどうでしょう。「無関心」な人は、苦痛や死に苦しむ人にまったく気がつかないのです。

③ 認識不足(にんしきぶそく)

世界中では、毎日2万人もの子どもが5歳前に死んでしまいます。しかし助ける方法はあるのです。知らなければ、知ろうとしなければ、彼らは死んでしまうのです。

④ 想像力の欠如(そうぞうりょくのけつじょ)

戦争で今住んでいるところを失ったら…ちょっと想像できますか？想像すると、少しだけですがその状況がわかります。もしこの想像する力が欠けていたらどうでしょう。他の人の置かれた状況が、どれほど深刻なことかわかるのでしょうか。これを「想像力の欠如」といいます。

日本赤十字社

日本赤十字社
の創始者
佐野常民
(さのつねたみ)



1822年 佐賀県に生
まれる

・元老員議官

博愛社設立に努力

・日本赤十字社 初
代社長

— 博愛社 (はくあいしゃ) 誕生 (たんじょう) のきっ
かけとなった西南戦争 (せいなんせんそう) 、とくに、
田原坂 (たばるざか) の戦い —

1877年 2月 (明治10年) 明治政府に、不満をもっていた
薩摩 (さつま) の士族 (しぞく) たちが、西郷隆盛 (さい
ごうたかもり) をもりたてて、九州で西南戦争 (せいなんせん
そう) をおこしました。熊本城 (くまもとじょう) や田原
坂 (たばるざか) では、激しい戦いがありました。

3月20日 田原坂でやぶれた薩摩軍 (さつまぐん) は鹿児島
(かごしま) へとしりぞき、やぶれさっていきました。

特に、田原坂の戦では、死傷者 (ししょうしゃ) が多数
(たすう) でて、しかも死者は、山や野原 (やまやのはら
に) に放置 (ほうち) されるという悲さんなありさまでした。

4月6日 その報道を東京できいていた佐野常民 (さのつね
たみ) は、大給恒 (おぎゅうゆずる) と博愛社 (はくあ
しゃ) という救護団体 (きゅうごだんたい) (敵・味方の区
別なくたすける) の設立願書 (つくるねがい) を岩倉具視
(いわくらともみ) 右大臣に提出しました。

佐野は、ヨーロッパにはすでに、「赤十字」という救護団体（せんじょうで たすけるだんたい）があることを知っていました。

「敵・味方の別なく助ける」という申し出は受け入れられませんでした。

博愛社の誕生

佐野は戦地の熊本に向かい、有栖川宮熾人親王（ありすがわのみやたるひとしんのう）（政府軍総揮官）に設立の許可を願いを提出しました。
許可されました。

1877年5月1日「創立記念日」と定められる。日の丸の下に赤い戦を引いた旗を博愛社のマークとして使用、直ちに救護活動を開始しました。

ジュネーブ条約調印

1886年6月5日 日本政府ジュネーブ条約調印

日本赤十字社の誕生

1887年5月20日 日本赤十字社と改称 初代社長佐野常民
副社長大給恒、花房義質

1890年4月 日本赤十字病院で看護教育を開始

1952年 「日本赤十字法」国会で成立



博愛社（はくあいしゃ）について

日本赤十字社ができる
きっかけとなったこと

1878年(明治10年)2月 九州で西南戦争が起こる

さつま軍と政府軍によるあまりにもひさんな戦争

両軍のきづついた人を「てき、みかたの別なく助ける」「博愛社」つくることを政府に提案ていあん

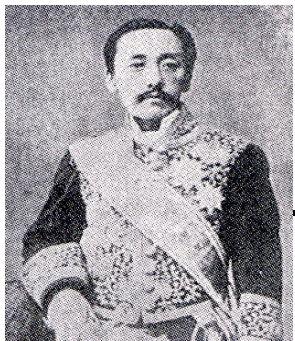
受け入れられない

明治10年5月1日 佐野常民はねがいをもちて熊本にいき、征討総督有栖川宮熾仁親王（ありすがわのみやたるひとしんのう）に直接提出。親王願いを許可

博愛社の標章（マーク）
日の丸の下に一本線を引く



さのつねたみ
佐野常民



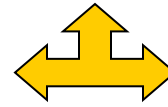
おぎゅうゆずる
大給 恒

博愛社について

赤十字の活動

国際活動

国際救援



開発協力

赤十字は、世界中の国々にあります。その、おもな活動は

○保護— 世界では30くらいの紛争があり、その犠牲者の9割くらいが、青少年や一般市民で、その人たちを赤十字国際委員会を中心に守っています。

○救援— かんばつやききん、自然災害、など、に対して、生活物資や医師、看護師をおくって医療活動なども行っています。

○復興— 被害を受けたひとのため、仮住宅を建設したり、手足を失った人のため義肢製作所を作ったり、リハビリー治療も行っています。

○予防— 干ばつや飢餓にあったところに、かんがい施設や農業技術の改善の指導援助
※ これらの活動資金は、一般の人々や会社からの寄付によって進められております。



災害救護活動

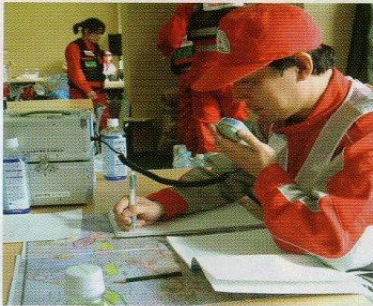
いつ、どこで発生するかわからない災害。地震や台風などの被害で困っている人々を助けるために、義援金を受け付けたり、医師や看護師などの救護班をすぐ派遣したりします。



災害救護活動(愛媛県支部)

災害救護活動

東日本大震災において、日本赤十字社愛媛県支部は、救護班及びこころのケア班等として、延べ118名(医師14名、看護師63名、主事等41名)を被災地(宮城県、福島県)へ派遣しました。



医療事業

赤十字の全国の施設

- ・ 病院 92
- ・ 診療所 6
- ・ 介護老人保健施設 8

日本国内には、92の病院があり、災害時の医療活動や医療機関の少ないへき地や離島への巡回診療、生活に困っている人たちへの医療活動など地域での中心的な医療活動を行っています。



看護師の養成

日本赤十字では、明治23年以來、100年以上も看護師を育ててきました。赤十字病院をはじめ多くの医療の現場でその看護師さんたちが活躍しています。

- ・ 看護専門学校 17校
- ・ 日本赤十字看護大学 5校
- ・ 日本赤十字短期大学 1校
- ・ 助産婦学校 1校



血液事業

手術やけがなどで大量に出血したときなどに使う輸血用血液や血液に関する病気(血友病の患者さんの)治療に欠くことのできない血液凝固因子製剤をはじめとする血漿分割製剤を医療機関に供給するため、日本赤十字社では国、各都道府県と協力して献血推進運動を行っております。

献血受入れ施設

- ・ 血液センター 66か所
- ・ 出張所 139か所 (血液ルーム 110を含む)

献血の呼びかけを行っているメンバー



赤十字奉仕団（ボランティア）

赤十字ボランティアは、
赤十字の使命とする人道
的な諸活動を身近な社会
の中で実践しようとする
人々の集まりです。

・地域赤十字奉仕団

2,349 団

・青年赤十字奉仕団

162 団

・特殊赤十字奉仕団

608 団

全国で 約3,199 団

約 220万人

防災ボランティア研修会



無線奉仕団の活動
紹介



病院ボランティア



募金活動で街頭に



しゃかい ふくし 社会福祉事業



お年寄りや小さな子どもたち、障がいのある人たちのための社会福祉施設を作り活動を行っています。



きゅうきゅうぼう

救急法等の講習

思わぬ事故にあったり、病気になったときにどうすればよいかを学びます。

救急法



水上安全法



健康生活支援講習



スキー場での事故を防ぎ、安全に雪と親しむことができるよう、雪上講習を行っています。





おわり